市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和６年４月 30 日　サークルき～ぽん

開会

あいさつ

　私たち「きーぽん」は、高齢者だが、元気な、まだいろいろやりたいとか、いろんなことに好奇心を持っている人間の集まり。高齢の市民もいろいろなことに参加しながら、自分たちの住みやすい、まちづくりに参加をしたいという思いを持っており、「きーぽん」ではそういうことに頑張っていきたいと、楽しみながら頑張りたいと思っている。
よろしくお願いします。

市長

　４月から対話集会を始め、市内各地からお声がけいただいて、これで４回目で、５月も予定がある。中津川市全域で、業界、業種には関係なく、グループを作って申し込んでいただき、一方的な要望やお願いを聞くのではなく、対話としてテーマを決めて、どうやったら中津川市が良くなっていくのかといった話ができればいいと思う。また、すぐには難しいかもしれないが、それを市の取り組みとしても取り入れていけたらと思っている。
限られた時間ですが、よろしくお願いします。

構成団体の説明（略）

参加者

　中津川市の高齢化率が 33％を超え、３分の１が高齢者ということになる。その高齢者がいかに幸せを感じて元気に過ごせるかがこれからの課題だと思っている。介護の問題は今後増え続け、他人事でなくなると思うが、行政だけでは対応しきれなくなってくる。ボランティアの育成も大切だが、関わる行政職員によっては丸投げや規制をかけるなどといったことがあり、なかなか上手く続けるのが難しいことがある。職員から、数字に表れないと予算をつけられないとか、公務員は奴隷じゃないといったことも言われ、そういう対応を改善していかないと、これから高齢化社会の中で年寄りもみんな幸せに暮らしていくためには大きな問題になると思う。

　子育てももちろん大事だが、高齢者向けのイベントが少なくなって、年寄りが楽しむ機会が少ないように思う。高齢者になっても学んで、楽しく過ごせるよう、ボランティアをうまく育てながら使っていくようなシステムができればと思う。元気なお年寄りがたくさんいて、会社でいろんな技術を身につけている人を生かした制度を作っていけば、ボランティアに生きがいを感じ、認知症予防にもつながっていくと思う。外に出ていろんなことをすることによって脳が活性化されて、認知症の予防になるので、高齢者が生き生きと暮らせるようなまちにしていただけたらいいと思っている。私たちも頑張るから、市の方も協力する形でうまく進めればいいと思うので、考えていただくとありがたいと思う。

参加者

私たち市民も「市は何もしてくれない」ではなくて、自分からもっとアクセスして、見に行くべきだと感じる。子どもから手が離れて自分の時間が増えても、結局仕事を増やして、自分のことで精一杯。唯一、市長のＳＮＳをフォローしているが、愛妻弁当とかに親しみを感じる。自分からアクセスして市のことを知っていかないといけないというのが自分の反省点。まちの人たちも、市職員も、お互いを知るようなことができればいいと思う。

六斎市を毎月やっていることはすごいと思うが、長年住んでいると、出店者からマンネリ化してきたという声をよく聞く。店を出しても来てくれる人も少ない、行く方も同じ店ばかりと聞く。ファーマーズマーケットもすごくいいと思うが出店者が少ないのが現状だと思う。中津川はあまり来てくれないから、多治見のマルシェに行ってしまうというのは、すごくもったいないと思う。友人は無農薬で野菜を作っているが、田舎で農家の方が多いから、そこに力を入れてアピールする何かがあればいいと思う。無農薬を前面に出したマーケットにするとか、何かに絞った魅力があるものを市民と一緒にしていけばいいと思う。

参加者

私もファーマーズマーケットに行ったらお店が２つしかなかった。時間が遅かったので何も買うものがなかった。やるなら、いろんな人が来て、内容もバラエティに富んだものにしていけたらもっと人が来ると思うが何もなくてがっかりしてしまった。

参加者

恵那市の図書館でやっているマルシェなんかは、中身が充実していて、魅力的で、会場も若い人もみえる。そういう魅力のあるものにしていかないと。

市長

六斎市も含めイベントにはいろんなやり方があり、変えていく必要はある。例えば六斎市とマルシェを一緒にやれば、相乗効果で盛り上がるといった意見も出ており、市民の皆さんから意見を聞いて、具体的にどうやっていくかになる。

坂下高校が秋に「咲かした（さかした）マルシェ」を学校内で開催していて、1,500 人、2,000 人ぐらいの方が来る。高校のＰＲもやるが、キッチンカーとか、坂下地域だけではなく広く市全体で店も集めて盛り上げてもらうイベント。今までに 2 回開催し、今年も 11 月に予定されているが、夕森公園、川上の紅葉まつりが始まる時期なのでタイアップしたらどうかなど、ぜひ、やっている人だけでなく訪れる人たちにも意見を聞きたい。

高齢者向けのイベントが少ないという話はその通りだと思う。例えば皆さん、こんなイベントなら行ってみたいといったことがあるのか伺いたい。スポーツではマレットゴルフが思っていた以上にすごく盛んで、毎週のようにイベント、大会をやっている。スポーツ以外の文化的なもの、こんなものなら人が集まるというのがあれば発信していただいて、一緒になって取り組むこともできると思う。

参加者

例えば、薬を一体どのように飲めばいいのか。もらった薬は真面目に飲むが、薬は逆効果を生み出す働きもあるものだから、知人を講師に薬についての勉強会をしようかと思ったりする。高齢者だけでなく、今いろんな問題があるのでピックアップしながら、テーマを持ちながら、「きーぽん」でやっていけるといいと思う。

高齢者は長い人生を生きてきているから、自分のやりたいこと、これから求めていくことも含めて、多様なものがあると思うので、全部を掌握することはできないが、私たちでできる講座、ミニゼミを持続させていく感じだと思っている。魅力的な人がいっぱいいるので活用して、いろんなことをやっていくのは大事かと思う。

参加者

現役のときは市外に出ることが多く、中津川を知らなかった。定年後にわかったのが、中津川にはすごくいろんなことがあるということ。明治 150 年の企画展示をしたが、活躍した先人たちが大勢いる。文学碑も、温泉も、観光資源、財産がいっぱいあるが、点になっているので、ぜひ線で結んで面積にして、まとめていく必要がある。私たちもそれを意識してやってきて途中で終わってしまったが、市民、高齢者も含めて中津川市の実態をアピール、ひと・まちテラスの 1 階スペースに動きのある展示とか、掘り起こしてどんどん発信していけば、かなり変わってくるのではないかと思う。わからせることがまず、第一歩ではないかという気がする。

それから今は各企業が給料を上げるとか、リスキリングに取り組んでいる。消滅地域が報道されているが、地域も同じで、リスキリングをとらえる必要があるのではないか。市民の持っている力を引っ張り出してそれを広げていって、レベルアップしていくのが地域の活性化、発展につながってくると思う。そういう機会を、ひと・まちテラスでアレンジして計画してやっていく機能も持たせられると、利用価値が上がるのではないか。

参加者

初めて中津川市に来て市役所に行ったときに、川沿いの道で警察署の前に「シートベルトを締めましょう」という看板が傾いているのを見て、中津川市役所の意見箱に書いて入れても直らないから、2 回言った。傾けてあるという話だがわからなかった。市民から意見があったらそれに対して答えてほしいが、その答えがなかった。

また、高速道路を走ったときに、緑がいっぱいあってきれいな街は第一印象がすごくいい。中津川に来たとき散歩したら四ツ目川の橋がすごく汚かった。高速道路料金所出たところもすごい枯草だった。すごくきれいにしているところは、やっぱりいいところに来たなと思うので、花を植えるとか、もっとまちをきれいにしていってほしいと感じた。

参加者

「図書館くらぶ」では、12、13 年にわたって、図書館はどういうものかも含めて、いろんな地域の図書館を自分たちも勉強して、図書館の機能について考えてきて、中津川市立図書

館と一緒になって作り上げることを目標にやってきた。
　図書館はコミュニケーション、憩いの場でもあるし、生涯教育、小さな子どもからお年寄りまでを含めた教育の場であるということを、市民と図書館が一緒になって作り上げていく、探していくことを追求していくところが、本来図書館ではないかと思う。そういう点で言うと、今の図書館は子どもが来て勉強できるということではいいと思う。
　時代が変わってきており、全国にある図書館などはまちづくりと人づくり、高齢者から、子どもから、不登校の子どもも、幅広いものに対して図書館の機能を市民と一緒になって作り上げ、そういう機能を持たせることは非常に大事じゃないか。

参加者
　今、図書館という機能が生涯学習、幼児教育はやって当たり前。それよりもっと市民が役に立つ図書館になるべきだというのが他の都市で取り組んでいる図書館像。私たちが自分で各地の図書館に視察に行って学んだのは、図書館は本を無料で貸すだけではなくて、行政のの力の蓄積、それから、人間を育てていくところ。さらに、生涯学習を含め、市民に役に立つと言われるような図書館に、頑張ってレベルアップしていく。安城市、大和市、鯖江などの取り組みは非常にいい。中津川も、4つの機能をひと・まちテラスに持たせており、立派なことで、ぜひ推進していきたいが、その上に1つ大きなテーマ、目標があってもいいのではないか。例えば、健康。まちの健康、人の健康をトップに、人の育て方、地域交流、子育てといった4つの機能を1つにまとめられる何かがあってもいい。中津川らしいキャッチがあってもいいという気がする。知の拠点としての図書館というものをもう一度、確立するということが地域の発展には必要なことではないか。

参加者
　結局ボランティアが必要だと思う。行政の人たちだけではできない、もうこれ以上仕事は増やしたくないときに、やっぱり、ボランティアをうまく使ってやっていく。「図書館くらぶ」はそれを目的としていろんなことをやってきた。新しい図書館ではそういうことを誰がやってくれるのか。子育てのことはいろいろやっているが発信力が少ない。恵那だと、テレビに出している。中津川でも図書館のミステリーツアーをやっていて面白そうだと思ったが、なかなか発信しない。図書館はこんなこともできると知ってもらわないと昔風の図書館になってしまうような気がして、そういう発信力やボランティアも育てていくのが大事だと思う。
　図書館もボランティア、図書館サポーターを養成しているが、活動している人は少ない。介護でも毎年ボランティアを育成するが、うまく活動できない人が多く、そこに行政が関わって手助けすると続くのではないか。ボランティアに対しての関わり方を考えてもらうと良い。ボランティアは手伝いするだけでなく、協働という形で、いいまちにしようとか、いい施設にしようということを一緒に考えながらやっていく。
　今、能登の災害ボランティアに行く人たちもただ片付けに行くだけじゃなく、今後のまちづくりも考えながらやっていると聞いているが、ただ奉仕するだけじゃなく一緒に考えていくというボランティアを育てていくのが、これからの課題になるのではないかと思う。

参加者

最近感心したのは、市民病院の病室でＷｉ－Ｆｉが使えるようになったこと。非常にうれしかった。もう一つは旧中山道の看板の破損があったが、市役所にメールしたらすぐ直したので非常に感心した。だから、全部否定するわけではない。

長い間、災害ボランティアをやってきて、言いたいことが随分たくさんある。例えば災害ボランティアで能登半島に行くことになると、日帰りで、バス代、食事代などで最低でも２万円を負担しなくてはいけない。長野県では県から補助金が出て、各自治体がその補助金を使ってバスをチャーターして人を集めて、炊き出しに出かけている。中津川のボランティア団体は個人負担が非常に多く、年金生活をしていると月に何回も行けない。だから、皆さんにご協力いただいて募金活動をしながら、被災地に送るとか、ＮＰＯ団体に対して活動費を補助している。そうしないと、個人負担ばかりで、やっていけない。中津川市としても、市がバスを出して参加を募るという方法もあると思う。

観光ガイドのボランティアを長いことやっている。馬籠、中津川宿など、各ガイドがたくさんいるが、本当に身銭を切っていろんなことをやっている。リニアが延期になるような話が出ているが、これからの中津川市の観光、これからの観光行政でどういうことを考えているのか、お聞きしたい。

市長

観光に関しては、もっと力を入れていくべきだと思っている。リニアの開業は延びるが、開業する時には、中津川市には観光資源がたくさんあるので、それをもっと前面に出していく取り組みをしなければいけない。今、中津川というとやはり馬籠に一極集中という感じだ。馬籠から、苗木や付知峡など、他にもたくさん観光で見てもらうところがあるので、いろいろ回ってもらうのがいい。中津川で食事もしてもらいたいし、泊まってもらいたい、そういった仕組みを作っていかなければと思っている。そのためには、例えば、観光地を回るような周遊バスが必要とか、お土産物屋が必要、建物が必要とか、宿泊が要るとかそういったことも含めて、観光は、地域にとっては非常に大切なことだと考えている。

また、中津川市には、今ある観光地以外の観光資源もある。今は皆さんが訪れるところではないが、いい場所がたくさんある。例えば市の面積の８割となる森林、山。山をどうやってこれから活用していくかはもう１つの中津川のテーマだと思っている。

リニアの開業を含めて、市も岐阜県も、森のまちづくりという表現をしているが、その森をどうやって生かしていくか。中津川市に観光などで来る方は、都市的なものを求めて来ているのではなく、自然、そこで癒されるといったことを求めている。歩いて日頃の疲れを癒したいといったとき、観光資源になりうる場所はまだまだたくさんあると思う。これから掘り起こしていけたらいい。そういうことを知っているのは地域の人たちなので、いろいろと話もしながら、どんどん増やしていくべきと思う。

市長

中津川市の職員も、今、災害派遣に順番に行っていて、延べ 100 人ぐらいになるが、それ

ぞれ行く場所も違う、避難所支援、給水、医療など、それぞれ市の職員の仕事も生かしながら、災害支援に行っている。現地もまだまだ復旧されてないが、数カ月が経って求められるものも違い、罹災証明を発行する業務支援とか、市の職員が向こうからの要望があって行くく。こちらからこれをやりたいではなくて、あちらからこれで来て欲しいというのが合致して行く。

参加者

企画展示で再生可能エネルギー、森林を取り上げたことがある。その時に、加子母の森林組合の組合長さんに案内してもらって、加子母の森を見せてもらったが、素晴らしい。加子母、付知あたりは財産。もう取り組みもされているが、ぜひ伸ばしていって欲しい。

市長

林業も大変で、それを伐り出すだけの人が今いない。林業だけではなく、農業も、企業でも、人がなかなかいないというのも共通している。林業も非常に厳しい。

ＰＲですが、式年遷宮、伊勢神宮が 20 年に１回建て替える、次の式年遷宮のための木の伐り出しが来年ある。これ加子母から木の伐りだしのセレモニーが来年６月にあり、中津川の誇れる、いわゆる観光資源の１つという気もする。

参加者

なかなか行けないところがあるので、マイクロバスを市でチャーターして、ツアーを年２回ぐらい組んで訪ねていく機会も作っていただくと、ぜひ乗りたいと思っている。

私もちょっと長生きしたくて認知症になりたくないので、そういうツアーができたらうれしい。ぜひ組んでください。

参加者

例えば、加子母のナメクジ祭り、知ってはいるが行ったことがない。合併のころに、そういうところへ回るツアーがあった。合併したところをとにかく見るっていうようなことだったと思う。

市長

中津川周遊バスというとなかなか難しいかもしれないが、現地集合、現地解散ならできるのではないか。まだ、そういったものもこれからなので、ご意見をいろいろ言っていただけるといい。すべてができるわけではないが、こういう意見が多いのでやってみようかというところにつながっていく気がする。

参加者

観光資源で言うと、例えば四ツ目川に桜並木があるが、もう大体 90 年ぐらい経って、今、テングス病で木が相当ダメージを受けている。地域の人たちの力では、伐採は無理で、川に

沿っているから機械を使わないととても無理だし、せっかくあそこまで大きくなって花を咲かせているので、あれも資源だと思う。何とか病気の枝だけ切って、ちゃんとした処理をしないと、もうどんどん木が弱って、立ち枯れになっているのもある。1 つの財産として考えてもらうといい。

参加者

年 2 回の市民一斉清掃があるが、草をむしりながら考えている。レジストロ通りの花壇を 1 区画ずつ誰かに貸して管理するのはどうか。契約期間中は花を絶やさないとか、誰かが責任をもって管理して、花や土は市が出す。美しさを保つ仕組みとして作ったらどうかと思っている。

参加者

市のホームページ、古い、更新していない。検索するのに少しも入っていけない。年寄りは慣れない。知りたいところになかなかたどり着けない。キーワードも少ない。市の役職の一覧表がなかった。

参加者

子どもが金メダルをもらうと聞いて、野球のチーム名を入れて検索したが出てこなかった。

市長

市の役職の一覧表はどこの市も載ってないと思う。

参加者

毎年、横浜市で図書館展があり、最先端の図書館を学べる。これまでも行っていたが、継続していきたい。今の館長にも行ってもらいたい。指定管理も一つの方法。

市長

皆さんはいろいろなボランティアで活躍されている。広い中津川で、各地域のいろんな方に活躍してもらいたい。その活動に助けてもらっていると思う。

対話集会では、市民の皆さんの声をお聞きしたい。地域性も違い、テーマごとに話を聞き、市として変えていくべきところもある。より良いまちにしていきたいというのは共通している。一緒になって何ができるのか、できるところから一つずつ、市の職員と一緒に改善していく。

貴重な意見をありがとうございました。